

平成 27 年度 第 1 回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時 平成 27 年 7 月 9 日(木) 午後 1 時～午後 2 時 30 分

場 所 LIC はびきの 教育研究所 会議室

出席者 (委員) 岸下委員、菅谷委員、脇谷委員、南野委員、竹内委員、嶋田委員、小澤委員、
荒川委員、瀬戸口委員

(教育委員会) 石井生涯学習室長

(事務局) 岩城課長、奥野館長、安東補佐、岩佐主幹

欠席者 上野委員

傍聴者 なし

●委嘱状交付式

●会長・副会長の選出

会長に岸下委員、副会長に菅谷委員を全会一致で選出

●開会

会長挨拶

生涯学習室長挨拶

●議事

議題 平成 26 年度の事業活動報告について

事務局：(『活動報告書』 p.1 により事業のトピックスを報告)

会長：何かご意見はないか。

委員：平成 27 年度の備品予算がゼロだが大丈夫なのか。

事務局：昨年度同様、大阪府の補助金を確保できるよう関係課と調整をしている。

委員：どのような補助金か。

事務局：子育て支援分野、子ども読書活動推進事業に対しての交付金で、備品も対象になる。

委員：平成 27 年度の使用料予算が極端に減っているが、理由は。

事務局：システムのリース期間が切れたため、そのリース料がなくなっている。

委員：システムの運用は大丈夫なのか。

事務局：現在、システム更新に向けて動いている。

委員：貸出が減少しているということで大人・児童と分けて貸出冊数を出しているが、たとえば大人の年齢層別の分析はしているのか。

事務局：必要と認識しており現在分析中であり、また、新システムでは更に細かく分析できるよう対応を検討したい。年齢層というより全体的に減少していると考えている。

委員：貸出の減少と資料費の減少は相関関係があるとされるがどうか。

事務局：図書購入費は市として予算上同額を確保できている。『報告書』の資料費に年度による変動があるのは、先ほど話した大阪府の補助金で図書購入費が確保できたことによる。

委員：貸出の減少についてはどう考えるか。

事務局：若者の活字離れが言われているが、また、ある調査によれば、サラリーマンの時間の過ごし方が 30 年前と比べて読書量が一番減っていると言われている。社会全体で読書離れがあり、活字に戻ってきてもらう方策が必要だと考えている。

LIC でのイベントなどで図書館の存在や関係資料の案内などしており、全市的な周知をしていきたい。

事務局：読書離れの考えを説明したが、補足したい。スマホの普及が読書離れの一因という記事を読んだ。例えば、以前は料理の作り方を本で見っていた人が今はスマホで見ている、といったもの。

子どもの時に本を読んでいた人は大人になっても本は読まない。子どもが本を読む習慣が必要と思う。

委員：私もスマホで調べることが多くなったが、図書館・学校では子どもたちが読書の習慣をつけるよう努力されている。がんばってほしい。

事務局：全体の貸出数は減少しているが、学校・団体など子どもの貸出は増えており、更に各関係機関と連携を深めこの部分は維持したい。

委員：古市図書館について。職員は中央から交代で行くので所属人数はゼロだ。常時ローテーションで配置はしているが貸出人数・点数でも一番低い、理由はどうか。利用が少ないことを、羽曳野市の図書館として再生してほしいと思う。

事務局：古市について、これまでもこの場やほかでもご意見をいただいている。同じ答えになるが、図書館の主たる機能は（市の）東は中央、西は陵南としている。

委員：中央は当初は位置が市の中央付近というものだった。古市付近から中央へは大きな道を横切らなければならず子どもにとっては安全とはいえない。

古市は地域の図書館としてコミセンの図書館と比べても利用が少ない。もう少し考えてほしい。

事務局：物理的なキャパの問題もあるが、子育て支援センター・青少年センターとの併設は「強み」と考えているので連携して運営していきたい。

職員数は中央からの 1 名のほか、青少年センターの職員もあわせて、カウンターは 2～3 名で対応している。

委員：一所懸命やっていたが、休み（＝休館）はどうにかしてもらえないかと思う。

委員：（図書館の専任）職員がいらないから休館日があると思うが、配置は厳しいか。

事務局：厳しい。

委員：小学校に司書が配置されているのはありがたい。常時、人が居ると違う。

委員：小さな子を持つ母親がいかに読書のおもしろさを教えられるか、小さいときの積み重ねをしてほしい。

委員：高齢者が増えて、本を読むのが大変だという声を聞く。

事務局：例えば障害者差別解消法が制定されたが、対応が必要な背景や課題があるからだ認識している。支援の必要な方に対して公立図書館としての役割は大切と思う。

委員：先ほど小さい子の読書習慣が大事という話があった。羽曳野市では、小学校・幼稚園の交流の例がある。幼稚園児を小学校の図書館に案内した時、園児たちはとても喜んでくれた。大きくなると情報機器に走るので、小さい頃は親の責任で本を読む習慣をつけてほしい。

委員：幼稚園には、寄贈された小さな本棚があり活用されている。

委員：子どもは本に視覚から入り、絵を見るが、私の園では子どもたちは長い話も聞ける。その姿を保護者に見ていただきたいと思う。絵本の素晴らしさ、読み聞かせの大事さを就学前にお知らせすることが大事だと思う。

委員：（幼稚園で）おじいさん・おばあさんの参観があつて行って来た。年長の子たちは静かにおはなしを聞

いていた。

委員：私がおはなしに行っている園ではおたんじょう会でおはなしをするので、保護者に来てもらっている。ご参考までにお知らせする。

委員：羽曳野市では、0・1・2歳児だけでお母さんも一緒に楽しめるおはなし会の取り組みというのはあるのか。

事務局：乳幼児検診時、ご案内やおすすめ絵本の紹介をしている。図書館ではおはなし会を定期的に行っているが、おたずねのような取り組みは、単独ではない。

委員：「子育てサロン」があり、そこは3歳児まで（が対象）なのでそれにあたるのではないかと。地区ごとに実施されている。

委員：この年齢へのウェイトを置いてもらったら、幼稚園に入った時にその経験が生きると思う。1年生に絵本を読むことがあるが、家庭による違いがあることを感じる。

委員：スマホやネットの環境で活字離れが起きている。活字の良さをどうやって伝えるか？ 基礎を作るのに子どもは大事だが、最近言われるように個人の課題解決に図書館は使える。大人の図書館利用の方向を探り、役に立つサービス、課題解決型サービスを展開していかなければならない。

それには正規職員が必要だ。図書館員になりたい人は多く、募集したら優秀な人を採れる。

「税金を使う図書館から税金を生み出す図書館」への流れもある。図書館の特性を行政にPRして、一点突破から始めて連携していくことが大事だ。そういう羽曳野の図書館サービスを持続していくためにも正規職員を採るべきだ。

事務局：委員ご指摘のとおり、図書館の役割として個人の課題解決支援サービスも重要であり、多くの資料を所蔵している。市の事業にあわせて図書館の存在を周知するようしていきたい。

事務局：正規職員の年齢は上がっている。これまでも若い正規職員を人事課に要望してきているが現状のとおり。今後も要望していく。

委員：図書館が役に立つことを、PRしてほしい。

委員：映像などが無料で豊富に見られる世の中で、1,000円や1,800円する本を誰が買うのかという意見もあるようだが、映像の元になるのがその本でもある。図書館の役割は大きい。確固たる信念で財源確保に臨んでほしい。

事務局：「人」は業務の根本をなすもの。人事課との話を続けてきて少しは認識してくれているところがある。すぐには応えが出ないが話は続けていく。活字の素晴らしさをアピールしていく。

事務局：映像の話だが、本が原作の映画を観て自分のイメージとは違った経験がある。人がそれぞれイメージを持つことができる所に本の良さがあると思う。

会長：本日はいろいろなご意見をありがとうございました。

●閉会